

平成 31 (2019) 年度学部入学式 学長訓示 (2019 年 4 月 2 日)

広島市立大学に入学された 435 名の入学生の皆さん、広島市立大学へのご入学おめでとうございます。広島市立大学を代表して、皆さんの入学を心より歓迎します。また、これまでお子様を大切に育ててこられました保護者の皆さまに、心よりお喜び申し上げます。

本日、ここに、広島市長、広島市議会議長をはじめ、ご来賓の方々のご臨席を賜り、入学式を挙行できますことは、広島市立大学の教職員および在学生にとって、大きな喜びとするところです。

広島市立大学は、建学の基本理念として「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を掲げ、平成 6 年に広島市が設置した公立大学です。ちょうど本年が創立 25 周年になります。昨日は来月から施行される新しい元号「令和 (れいわ)」が発表され、さらに本年度は 21 世紀生まれの高校生が初めて入学する年であるなど、本年度の入学生の皆さんはいろいろな意味で節目の年の入学です。

本学は学生数が大学院生を含めて約 2,000 名の中規模大学ですが、国際学部、情報科学部、芸術学部というユニークな学部構成を持つ総合大学であり、約 200 名の専任教員による少人数教育を特色としています。

これから皆さんは本学でいろいろなことを学ぶことになります。本学で皆さんに学んでほしいことは多数ありますが、本日は 3 つのことを皆さんにお話しします。それは、平和について、国際的視野について、そして、読書について、です。

まず、平和についてお話しします。広島市は 1945 年 8 月 6 日の原子爆弾の投下により人類史上最初の被爆都市となりました。原爆の惨禍から復興を遂げ

た広島市が設置した公立大学である広島市立大学は、建学の基本理念で「世界平和に貢献する大学」を標ぼうしており、平和に関する教育と研究は本学の使命です。本年 4 月には、平和に関する教育と研究の強化を目指して、大学院に平和学研究科を設置しました。

1945 年 8 月 6 日の朝に広島に起こったことは、決して、歴史上の 1 コマとして忘れ去られてよいものではありません。人間はあのとき、自分たち自身を滅ぼす能力をもつ兵器、すなわち核兵器を自らの手にしたのであり、核兵器は今もその威力を数万倍にも増して、人間の手元にあります。1945 年 8 月 6 日の広島、そして同年 8 月 9 日の長崎で起こったことを知ることは、人間の尊厳と生存に直接かかわることです。

ですから、核の時代に生きるすべての人間が平和について、そして原爆について学ぶことは責務です。特に、広島市が設置した公立大学で学ぶことを選択した学生として、ぜひ、皆さんには、平和について様々なことを学び、平和を自らの言葉で表現できる人間になってください。そのためのさまざまなカリキュラムを用意しています。

次に国際的視野についてです。グローバル、あるいは国際という言葉は皆さんもよく耳にすると思います。しかし、グローバルとはなんでしょう、あるいは国際的とはどういう意味でしょう。英語が流暢に話せることでしょうか。あるいは、毎月のように海外に行くことでしょうか。

もちろん、そうしたことは国際的という形容詞に密接に関係することですが、それで十分ではありません。本学の建学の基本理念には、本学は「国際的な大学」であると謳われています。建学の基本理念で謳われている「国際的」にはいろいろな解釈はあると思いますが、私は「国内外の多様な文化や価値観を理解し、尊重すること」だと考えています。

今、世界では、排他的な考え方が徐々に広がっています。そうした流れに異議を唱え、真の国際人として、地域で、そして世界で活躍できる人材を育てるために、本学では、グローバル人材育成のためのカリキュラムや留学制度を充実させています。昨年4月には、日本人学生と留学生が1ユニットに3人ずつ、同居する国際学生寮「さくら」を設置し、キャンパス内でのグローバル化も進行中です。入学した学部に関わらず、是非、皆さんには国際的視野を持つ人間となることをめざして勉学に励んでほしいと思います。

最後に読書についてです。読書についてお話する前に、人工知能 AI について、少しお話します。これから21世紀を生きていく皆さんに伝えたいこととして、AIが発達し、多くの仕事がコンピュータで実現できるようになると予想されています。そうしたAI社会を生き抜くためには、物事を深く考える力、大量にあふれる情報の中から重要で本質的なものを見抜く力、他者とコミュニケーションを取りながら協働で仕事をしていく力がますます重要になってきます。こうした力を身に付ける最善にして、ほとんど唯一の方法は本を読むことです。

なにかについてまとまった分量の文書を読むことで、人間は考える力と系統だった知識を身に付けることができます。そして、それは現在のインターネット社会のSNSとは対極にある文化です。もちろん、SNSを否定しているわけではありません。SNSにはSNSの役割があります。しかしながら、例えば140文字のツイッターで表せる思想にはおのずから限りがあるのは自明なことです。

本を読むことに慣れていない皆さんも多いと思います。そんな学生のために、本学ではおよそ10年前から「いちだい知のトライアスロン」という教育プログラムを全学で進めています。これは、大学に入ったら、本を読もう、美術館に行こう、映画を見よう、という教育プログラムです。教員との日常的なふれあいの中で、自然に読書、美術鑑賞、あるいは映画に親しむようになることを目指したプログラムです。本日は細かいことは説明しませんが、読書の向こうに広がる豊かな世界をぜひ在学中に体験して下さい。一度、経験すれば、病みつ

きになることは保証します。

最後になりますが、これからの大学生活において、皆さんは多くのことを体験することになるでしょう。例えば、友人との新しい出会いもそうですし、これまで経験しなかったスポーツを始めることもあるでしょう。あるいは長期休暇を利用して、見知らぬ土地を旅行するのもよいでしょう。大学はそうした皆さんの活動を心から応援したいと思います。

皆さんの広島市立大学での日々が実り多いものになることを祈念しまして、結びとします。本日は、ご入学、誠におめでとうございます。

平成 31 年（2019 年）4 月 2 日

公立大学法人広島市立大学 理事長・学長 若林 真一